

根管消毒・歯髄鎮痛鎮静剤

* 劇薬 キャンフェニック「ネオ」

CAMPHENIC「NEO」

貯 法：光を避けて室温で保管すること。
使用期限：外箱及びラベルに表示の使用期限内に使用すること。

承認番号	13513KUZ08363001
保険適用	1953年4月
販売開始	1953年4月
再評価結果	1982年8月

【組成・性状】

1. 組成

100 g 中に次の成分を含有する。

(有効成分)	d-カンフル	60 g
	フェノール	30 g
(添加物)	エタノール	

2. 製剤の性状

無色澄明の液で、カンフルのにおいがある。

【効能・効果】

齶窩及び根管の消毒、歯髄炎の鎮痛鎮静

【用法・用量】

適法にしたがって齶窩及び根管の処置後、本剤の適量を滅菌小綿球又は綿繊維に浸潤させて窩内あるいは根管内に挿入し、仮封する。

【使用上の注意】

1. 副作用

過敏症（頻度不明）

過敏症状が現れた場合には、使用を中止し、適切な処置を行うこと。

2. 適用上の注意

- (1) 軟組織に対し局所作用を現すおそれがあるので、口腔粘膜等に付着させないように配慮すること。
- (2) 軟組織に付着した場合には、直ちに清拭し、消毒用エタノール、グリセリン、植物油等で清拭するか、又は多量の水で洗うなど適切な処置を行うこと。
また、手指等に付着した場合には、石けん等を用いて水又は温湯で洗浄すること。
万一眼に入った場合には、直ちに多量の水で洗浄する等の適切な処置を行うこと。
- (3) 歯科用のみ使用すること。

3. その他の注意

急性毒性（本剤）⁶⁾

マウス (♂) 経口 LD₅₀ = 775.6 mg/kg

【臨床成績】³⁾⁵⁾⁷⁾

適用	症例数	成績		
		良好	概良	不良
直接歯髄	55	44	8	3
間接歯髄	18	15	1	2

【薬効薬理】

<薬理作用>

フェノールには殺菌・消毒作用と共に局所麻酔作用があるが腐食性が強く、粘膜、皮膚をおかす⁸⁾。しかしカンフルを添加すると、両者は反応して分子化合物を形成し、低毒性となって腐食作用も弱くなる¹⁾。フェノールとカンフルの配合比 1 mol:1 mol のとき、5%フェノール水溶液に匹敵する殺菌力を有する²⁾。本剤は *Aspergillus oryzae*、*Candida albicans* に対しても、発育を阻止する⁴⁾。

<局所作用>

本剤を直接露出歯髄面に対し応用した場合、フェノール及びカンフルを単味で応用した場合に比較し、各種臨床症状の発現も少なく、優れた鎮静作用を有し、病理組織学的にも良好な成績を示す⁷⁾。

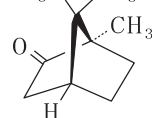
【有効成分に関する理化学的知見】⁸⁾

1. 一般名：d-カンフル (d-Camphor)

** 化学名：(1*R*,4*R*)-1,7,7-Trimethylbicyclo [2.2.1] heptan-2-one

分子式：C₁₀H₁₆O (分子量：152.23)

構造式：H₃C  CH₃

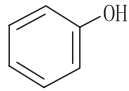


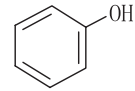
性状：本品は無色又は白色半透明の結晶、結晶性の粉末又は塊で、特異な芳香があり、味はわずかに苦く、清涼味がある。本品はエタノール(95)、ジエチルエーテル又は二硫化炭素に溶けやすく、水に溶けにくい。本品は室温で徐々に揮散する。

2. 一般名：フェノール (Phenol)

化学名：Phenol

分子式：C₆H₆O (分子量：94.11)

構造式：



性状：本品は無色～わずかに赤色の結晶又は結晶性の塊で、特異なおいがある。本品はエタノール(95)又はジエチルエーテルに極めて溶けやすく、水にやや溶けやすい。本品 10g に水 1mL を加えるとき、液状となる。本品は光又は空気によって徐々に赤色を経て暗赤色となる。本品は皮膚を侵して白くする。
凝固点：約 40℃

【取扱い上の注意】

＜注意＞引火性があるので、火気に注意して使用・保管すること。

【包装】*

10 g

【主要文献】

- 1) 真泉平治：歯科用消毒薬の研究（第3報），
歯学，42(1～2)，20～26，1954.
- 2) 真泉平治：石炭酸カンフル合剤の作用機作に関する研究，
歯学，44(1～2)，3～15，1956.
- 3) 森本 優，莊 浩，浅井康宏，山岸昭平，稲浜洋一，
関根永滋：歯髄鎮静療法に関する臨床病理学的研究，
特にフェノール・カンフルの窩底象牙質を介して歯
髄に及ぼす影響，
歯科学報，61(4，5)，35～41，27～31，1961.
- 4) 吉村泰治：歯科領域に繁用されている消毒剤の抗真
菌作用について，
歯科基礎医学会誌，9(3)，110～129，1968.
- 5) 浅井康宏，松井啓之，森岡俊介，石 光範，岩切信樹，
加藤欽也，田上隆弘，関根永滋，渡貫 健：歯内療
法薬剤フェノール・カンファーに関する臨床病理学
的検討（予報），特にパラモノクロロフェノール・
カンファーとの比較について，
日歯保誌，16(2)，127～140，1973.
- 6) 岡田 孝，堀川栄二：Phenol Camphor の急性毒性
実験，
歯科学報，75(6)，934～939，1975.
- 7) 松井啓之：歯内療法薬剤フェノール・カンファーに
関する臨床病理学的研究，特にフェノール及びカン
ファー単味との比較について，
歯科学報，76(2)，251～304，1976.
- ** 8) 第十六改正日本薬局方解説書(2011).

【文献請求先】

請 求 先：ネオ製薬工業株式会社 学術情報部
住 所：〒150-0012 東京都渋谷区広尾3-1-3
ホームページ：<http://www.neo-dental.com/>
フリーダイヤル： 0120-07-3768

製造販売元



ネオ製薬工業株式会社

〒150-0012 東京都渋谷区広尾3丁目1番3号
Tel.(03)3400-3768(代) Fax.(03)3499-0613